

外国直接投資とグローバル化に関する文献の考察と課題

連 宜萍（公立鳥取環境大学）

研究の背景

過去数10年間、二国間・地域間の自由貿易協定（FTA）や経済連携協定（EPA）が進展し、調印と発効の数が激増している。貿易自由化や投資自由化の展開が、多国籍企業の外国直接投資（FDI）を促し、ひいては中間製品を供給する上流企業や下流企業の国際化を牽引するまで、製造サプライチェーンは網の目のように世界で張り巡らされている。しかし、近年、保護主義が台頭し、米国のTPP離脱、米中貿易戦の長期化、コロナ禍の最中に調印・発効したRCEPの機能低下等、これまで推進されてきた自由貿易体制は揺らぎ始めている。

リサーチクエスションと研究の目的

自由貿易体制の揺らぎが多国籍企業の投資行動やサプライチェーンの構築を阻害するものの、企業の最適な国際化行動が見出されていないことは大きな問題である。FTAの揺らぎが多国籍企業の投資行動とサプライチェーン構築にどのようなインパクトを及ぼしているか。本研究はプレスタディとして、自由貿易体制の最新の動向を整理したうえで、多国籍企業による直接投資およびグローバル化に係る理論と研究をレビューすることを通じて、今後の研究課題と分析の枠組みを構築することを目的としている。

研究方法

研究の背景に関連する自由貿易体制に関しては、WTOの機能低下と二国間FTAの非効率性等の問題を整理したうえで、アジア太平洋地域を囲む国々が積極的に交渉していたTPP（現在CPTPP）とRCEPを中心に、それらの交渉拡大、停滞、調印、発効、主要参加国の離脱等の経緯を整理する。その上、先行研究のレビューについて、本研究は国際投資理論と国際化の段階論の特徴を時系列に整理したうえで、FTAのインパクトに関する従来の研究をレビューする。これまでの理論と研究の成果をまとめ、残された課題を指摘する。

研究の結果

アジア太平洋地域ではCPTPPとRCEPという2大広域FTAの交渉が進められた。合意に至る前、交渉の拡大と停滞を繰り返し、調印後になっても、主要参加国の離脱がもたらす不利益や、今後、新規参加国の加入によって発生しうるリスク等、不確実性が満ち溢れている。こうした自由貿易体制の揺らぎが、国際通商ルールの混乱を招き、多国籍企業が構築したグローバル・サプライチェーンに多大な影響を及ぼすことは、従来の理論や先行研究の対象外となり、多くの課題が残されている。

従来の国際投資理論と国際化の段階論を要約すると、Hymer (1960) の寡占的優位論、Dunning (1976) の折衷理論と Rugman (1981) の内部化理論の論点は、企業が自社の優位性を海外で活用し、生産活動や販売活動を内部化することにより、市場の不完全性を解決できる「優位性活用」である。一方、Weber (1909) の工業立地論、Vernon (1966) のプロダクトサイクル論と Kojima (1973) の産業の比較優位論の論点は、企業がより低い生産コストを追求するために、製造工程を海外に移転させる「費用最小化」である。

1980年代以降、発展途上国の企業による FDI の研究が盛んになる。Wells (1983) の小規模技術理論、Lall (1981) の技術の局地化理論、Cantwell (1989) らの技術革新と産業高度化の理論では、シンプルで標準化された小規模の生産技術の吸収・適応・改良の能力が発展途上国の産業高度化を促すことを説明している。加えて、Johanson & Vahine (1977) のアップサル・モデルでも、企業の FDI と事業の国際化展開がノウハウの蓄積につれて段階的に拡大することを論じている。

従来の国際投資理論と国際化の段階論は、企業内部の優位性もしくはノウハウの蓄積能力等に着目した。近年、多国籍企業の国際化行動に影響を与えるのは、企業内部の優位性活用といった理性的な行動ではなくなり、企業外部の様々な要因に影響され、様々なネットワークにおいて異なる組織メンバーの行動に影響されうる。残念ながら、政策変更や国際情勢の変化等の外部要因が企業の国際化行動に与える影響についての研究蓄積は非常に乏しい。

また、FTA の影響に関する既存研究の多くは、マクロ的な視点から、一国が FTA に参加すべきか、FTA への参加による貿易効果等を検討してきたが(板倉[2008]、Son et al.[2013]、Reed et al.[2016])、ミクロ的な視点から、FTA の影響を検討する研究は極めて少ない。

本研究は最後に、従来の理論と諸研究の成果を踏まえて、FTA という外部要因を加え、繊維・衣服産業を事例に、ミクロ的な視点から、自由貿易体制の揺らぎが多国籍企業の投資行動とグローバル・サプライチェーンの構築に与える影響に関する 4 つの課題を提起し、それぞれの分析の枠組みを構築した。

課題 1：FTA の揺らぎが FDI に与える影響の検証

課題 2：繊維・衣服製造サプライチェーンの立地分布のサーベイ

課題 3：フィールド調査を通じた一次情報の獲得

課題 4：組織間のネットワーク関係の分析

本研究で挙げた 4 つの課題を筆者自身の今後の課題にする。

主な参考文献

Lien, Y. (2019). "The Expansion and Challenges of Free Trade Agreements." *Asia Pacific Business & Economics Perspectives*, 7(1), 74-87.

石川幸一 (2016) 「日本企業のサプライチェーンと FTA-ASEAN を事例として」『メガ FTA と世界経済秩序-ポスト TPP の課題-』勁草書房、pp.195-211。